

グループホーム・ケアホームと一人暮らし

しょうがいのある人達の暮らしの場は、自宅（親等の同居）以外にグループホームやケアホームあるいは入所施設などがあげられる。自宅はもとよりアパートでの一人暮らしや友達とのルームシェア、また好きな異性と同棲というように、自分自身で選択しながら好きな暮らし方ができる我々と比べると、しょうがいのある人達の選択肢は限られている。

しょうがいがあるからといって、その人が望む生活ができないというのはおかしいことである。人間には平等の権利があると憲法に書かれているのだから、どの人にもその人が望む暮らしを送れるように支援する事が必要である。しょうがいが重いからと希望しても一人暮らしができないというのは一つの差別だと私は思う。

ところでグループホームの暮らしは一般的には一人暮らしと世間では理解されているが私は必ずしもそうは思わない。なぜなら、それぞれに個室になっている居室があるとはいえ、朝夕の食事は同じものを食べているし、他の入居者とあまり変わらない生活を送っている。これでは、ただの共同生活で地域にある小さな入所施設である。本当の一人暮らしはアパートや貸家を借りて生活するものである。

しかし今、ホームに住まわれている方が一人暮らしを望んでも、支援するシステムが整っていないのが現状である。こうした状態をこのままにしていけるのだろうか。その人がしたいという生活を支援できないままでいいのだろうか。ニーズがあるのに支援できないのは職務怠慢である。だったらシステムを作ればいい。

私は家族・安全安心コールセンター・成年後見人・ヘルパー事業所・相談員・日中作業所・アパート大家さん・行政と連携し支援する仕組みが必要だと思う。ただ現在は、私たちの運営するホームに住まわれている方から一人暮らしをしたいという希望がでてきていない。だからといって現状のままではいけない。いざ一人暮らしをしたいという方があらわれた時には対応できないからである。希望者がいない今だからシステム作りしてすぐにも対応できるようにしなければいけない。

以前、何かの研修で講師の方がいわれた事に衝撃を受けたことがあった。それは重度心身しょうがいの方が様々なサービスを使い、アパートで一人暮らしを実現したという話を聞いたからだ。昴は先進的な取り組みをしているというが、もっと進んでいるところがある事を知った。

私も貪欲に一人暮らしができるシステム作りに取り組み、支援をしていきたい。

ホーム事務局 赤間 裕